

とんな子みっけ!

今年も来年度入園のお子さんを対象に、親子見学会“おさんぼたいむ”が始まりました。「妹が来たなら、一緒に手をつないでドラえもんするの」と楽しみにしていたり、年少の先生が「あれ?○○くん、てんとう虫組さん?」と聞くと「違う、お兄ちゃん組だもん。」と、きっぱり否定して、その後の行動を機敏にしてお兄ちゃんぶりをアピールしていました。そして、ドラえもんの曲が流れて来ると、年長組だけでなく年少組も小さい子たちの所に行って手を繋ごうと誘いに行きます。去年自分が

してもらったことを覚えているのか、一生懸命誘いに行くのです。でも、てんとう虫組さんはお母さんの後ろに隠れてなかなか手を繋いでくれません。普段なら「繋いでくれない!」と膨れる年少組ですが、怒ったり無理やり手を繋ごうとする子は一人もいませんでした。嫌がられても、そこに留まらず、また次の子を誘いに行きます。こんな風に、気持ちを切り替えて次のお友だちを誘いに行く姿は、逞しく大切なことだと思います。

幼稚園では色々なことが起こります。仲良く遊べることはもちろん、ケンカになること、手が出ること、思いを伝えられずに泣いてしまうこと、強引になることなど・・・まだまだ社会生活第一歩ですからそれが当たり前です。そして、嫌な思いをすることだって当たり前。で



も、“繋いでくれなかった”と、人のせいにしてほしくないし、キライ!とかイジワル!という思いだけで終わらせてほしくないなと思うのです。

先日こんなやりとりがありました。「〇ちゃんに髪を引っ張られた。」と言います。先生は「痛かったですでしょう。大丈夫?」と声を掛けました。すると「〇ちゃんは長い髪の毛が好きみたい。それで気になって引っ張っちゃうの。だから、髪の毛を後ろにして一緒に遊ぶんだ。」と話してくれました。〇ちゃんと一緒に遊びたい思いが、相手の気持ちを考えてみる、それに気付いて“どうしたら仲良く遊べるか”とも考えて、「髪の毛を後ろにしたら・・・。」という行動に表れたのだと思います。大人は「引っ張っちゃいけない!」と白黒をつけて、どっちが悪いで終わらせてしまいがちですが、社会生活第一歩の子どもでさえ、相手の気持ちを思いやる見方ができること・・・大人も見習わなければいけません。

そんなの、うちの子気づけるかしら・・・ですよ。でも、「髪を引っ張られた。」というのでキライになっていたなら、嫌な思いだけで終わったでしょう。そこで、時には大人や先生が“相手の気持ち”に気付けるように声を掛けたり、みんな



で“どうしたらいいか”一緒に考えたりすることで、仲良く遊べるようになるという体験にできたらいいな思います。

とんな

「とんな」は、ようちえんで起こる
とんなとき・とんなこと・こ～んなにを
折々お届けします。

裸ん坊がぞろぞろ

お水遊びが気持ち良い季節。園庭ではキャーキャー言いながら、お水のトンネルくぐりを楽しんでいます。そんな中、ふと気が付くと、さっきまで遊んでいた年少組がいません。どこに行ったのかと思ったら・・・



わんぱーくの“そらのおうち”から裸ん坊がぞろぞろ出てきました。「びっちょびちょ～」と言いながら嬉しそうに踊って(?) いるのです。

きっと、一人が勢いで脱ぎだしたのがどんどん伝染してあっという間に裸ん坊がいっぱい! 入園して3か月。“お友だちと一緒に楽しい!” そんな気持ちの表れなのでしょう。



お着替えも自分で出来るようになったからこそ心配なく裸ん坊になるのです。





じゃがいも
「ほったどー！！」

じゃがいも掘り

3月に植えたじゃがいもが、収穫の時を迎え、年中組が名乗りを上げてネイチャーランドに行ってきました。

Q園隊でじゃがいもを植えた子が場所を案内しながら進んでいきます。「ここだ！」まずは男の子が掘ってみることにしました。茎を一気に引き抜いてみると、じゃがいもが1個、顔を出しました。「やったー」嬉しそうに見せてくれます。でもまだ土の中に隠れているようです。「どこだ〜？」と土を掘りだしますが・・・子どもによって掘る様子はさまざま。茎に付いている1個で満足な子や、どんどん掘ることに燃える子、丁寧に丁寧に掘る子、友だちが掘ったのをせっせと集める子などなど。その中で、「まだ掘ってない」と言う子も出てきます。自分で見つけて掘る体験をしてほしいので、先生が「この辺にありそうよ！」と声を掛けます。すると、傍で聞いていた子がヒョイツと持って行ってしまふこともあるのです。

ご〜んな子みっけ!



カタツムリとおさんぽ!



グレープフルーツ食べたらこんな顔!



山本製茶園にて、「やまと博士」と



茶摘み

花まつりで“甘茶”を飲み、その茶葉を見たことから興味が広がったお茶作り。市原の山本製茶園でお茶摘みをしてきました。

お茶摘みと言えば“一芯二葉”。お茶の枝先にある新芽と、その下の2枚の葉を摘むことです。子どもたちは、♪茶摘み♪を歌ったりしながら摘みましました。しばらくすると、摘んだ葉っぱの量に差が出て来るようになりました。袋の中を覗いてみると・・・大きい葉っぱを集めている子がいます。どうやら“いっぱい摘むぞ〜”と、厳選せずに集めたようです。それもまたカワイイ姿でもあります。もう一度どんな葉っぱなのかを丁寧に教えてもらうと、その後は挽回するようにどんどん一芯二葉を摘んでいました。子どもにはまだ難しいとか、子どもだからといって侮るなかれ!子どもだからこそ、物事の本質をきちんと教えて、見る目を育ててあげることの大事さを改めて感じた出来事でした。

♪茶摘み♪

- 1、夏も近づく八十八夜野にも山にも若葉が茂るあれに見えるは茶摘みぢやないかあかねだすきに菅(すげ)の笠
- 2、日和(ひより)つづきの今日このごろを心のどかに摘みつ歌心摘めよ摘め摘め摘まねばならぬ摘まにや日本(にほん)の茶にならぬ



お茶っ葉をお口の中でちゅうちゅーしていたら、“一芯二葉”の葉っぱが出てきました。